



## IPv6 を設定する

- [IPv6 設定の概要 \(1 ページ\)](#)
- [IPv6 の設定タスクフロー \(2 ページ\)](#)

### IPv6 設定の概要

IM and Presence Service と Cisco Unified Communications Manager 間の接続に IPv4 を使用していても、IM and Presence Service では外部とのやりとりに IPv6 を使用できます。

IM and Presence Service ノードで次のいずれかの項目に IPv6 を設定する場合、ノードは着信する IPv4 パケットを受け入れず、自動的に IPv4 の使用に復帰することはありません。

- 外部データベースへの接続
- LDAP サーバへの接続
- Exchange サーバへの接続
- 連携の展開

フェデレーションでは、IPv6 が有効な外国企業へのフェデレーションリンクをサポートする必要がある場合は、IM and Presence Service で IPv6 を有効にする必要があります。これは、IM and Presence Service ノードとフェデレーション企業間に ASA がインストールされている場合にも当てはまります。ASA は、IM and Presence Service ノードに対して透過的です。

コマンドラインインターフェイスを使用して IPv6 パラメータを設定する場合の詳細については、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html> にある『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』および『Cisco Unified Communications Solutions コマンドラインインターフェイスガイド』を参照してください。

## IPv6 の設定タスクフロー

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
<b>Step 1</b>	IM and Presence Service 用 Eth0 を IPv6 で有効にする (2 ページ)	クラスタ内の各 IM and Presence Service ノードの Eth0 ポートで IPv6 を有効にします。各変更を適用するには、ノードを再起動する必要があります。
<b>Step 2</b>	IPv6 エンタープライズパラメータを有効にする (3 ページ)	Eth0 ポートで IPv6 を有効にした後、IM and Presence Service クラスタの IPv6 エンタープライズパラメータを有効にします。
<b>Step 3</b>	サービスを再起動する (3 ページ)	変更を適用するには、IM and Presence のサービスを再起動しなければなりません。
<b>Step 4</b>	IPv6 アドレスを IM and Presence Service ノードに割り当てる (4 ページ)	IPv6 アドレスを IM and Presence Service ノードに割り当てる

## IM and Presence Service 用 Eth0 を IPv6 で有効にする

クラスタの各 IM and Presence Service ノードの Eth0 ポートで IPv6 を有効にするには、Cisco Unified IM and Presence Operating System の管理 GUI を使用します。

### 手順

- Step 1** Cisco Unified IM and Presence OS 管理で、設定 > IP > イーサネット IPv6 を選択します。
- Step 2** [イーサネット IPv6 設定] ウィンドウで、**ipv6の有効化** のチェックボックスをオンにします。
- Step 3** [アドレス ソース (Address Source)] を選択します。

- ルータ アドバタイズメント
- DHCP
- 手動入力

手動入力を選択した場合は、**IPv6 アドレス**、**サブネット マスク**、および **デフォルト ゲートウェイ** の値を入力します。

- Step 4** [Update with Reboot (リブートを使用した更新)] チェック ボックスをオンにします。

**ヒント** 予定されていたメンテナンス時間中などに、後で手動でノードを再起動する場合は、[リブートを使用した更新 (Update with Reboot)] チェックボックスはオンにしないでください。ただし、変更した内容はノードがリブートされるまで有効になりません。

**Step 5** [保存 (Save)] をクリックします。

[リブートを使用した更新 (Update with Reboot)] チェックボックスをオンにした場合は、ノードがリブートされ、変更が適用されます。

---

次のタスク

[IPv6 エンタープライズパラメータを有効にする \(3 ページ\)](#)

## IPv6 エンタープライズパラメータを有効にする

IM and Presence Service クラスタの IPv6 エンタープライズパラメータを有効にするには [Cisco Unified CM IM and Presence Administration (Cisco Unified CM IM and Presence の管理)] を使用します。

始める前に

[IM and Presence Service 用 Eth0 を IPv6 で有効にする \(2 ページ\)](#)

手順

- 
- Step 1** Cisco Unified CM IM and Presence 管理で、システム > エンタープライズパラメータを選択します。
  - Step 2** エンタープライズパラメータの設定 ウィンドウで、IPv6 パネルの 有効 を選択します。
  - Step 3** [保存 (Save)] をクリックします。
- 

次のタスク

変更を適用するには、「[サービスを再起動する \(3 ページ\)](#)」に移動します。

## サービスを再起動する

クラスタの IPv6 エンタープライズパラメータを有効にした後に、この手順で、IM and Presence サービスを再起動します。



---

**ヒント** [Cisco Unified CM IM and Presence Administration (Cisco Unified CM IM and Presence の管理)] を使用してシステム再起動通知をモニタするには、[System (システム)] > [Notifications (通知)] を選択します。

---

始める前に

[IPv6 エンタープライズパラメータを有効にする \(3 ページ\)](#)

手順

- 
- Step 1** [Cisco Unified IM and Presence のサービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability)] から、[ツール (Tools)] > [コントロールセンタ-ネットワークサービス (Control Center - Network Services)] を選択します。
- Step 2** [サーバ (Server)] リストから、サービスを再アクティブ化するノードを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- Step 3** **IM and Presence Services** エリアで、**Cisco XCP Router**を選択します。
- Step 4** [再起動 (Restart)] をクリックします。
- Step 5** [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リストから [サービスのアクティブ化 (Service Activation)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- Step 6** **IM and Presence Services** のエリアで、以下のサービスを選択します。
- **Cisco SIP Proxy**
  - **Cisco Presence Engine**
- Step 7** [保存 (Save)] をクリックします。
- 

## IPv6 アドレスを IM and Presence Service ノードに割り当てる

この手順で、Cisco Unified Communications Manager で IM and Presence ノードの IPv6 アドレスを割り当てることができます。

始める前に

また、Cisco Unified OS の管理で IPv6 Eth0 ポートを有効にし、IPv6 エンタープライズパラメータを有効にする必要もあります。

手順

- 
- Step 1** Cisco Unified Communications Manager のパブリッシャ ノードにログインします
- Step 2** Cisco Unified CM の管理から、[システム (System)] > [サーバ (Server)] を選択します。
- Step 3** 次のいずれかのタスクを完了します。
- サーバを追加するには、**新規追加**をクリックします。
  - 既存のサーバを更新するには、**編集するサーバ**をクリックします。

- Step 4** 新しいサーバを追加する場合は、**サーバの種類**のドロップダウンメニューで、**CUCM IM and Presence** を選択して、**次へ** をクリックします。
- Step 5** サーバの **IPv6 アドレス** を入力します。
- Step 6** **[保存 (Save)]** をクリックします。
- Step 7** 各 IM and Presence Service ノードでこれを繰り返します。

## IM and Presence Service 用 Eth0 で IPv6 を無効にする

IPv6 を無効にするには、**Cisco Unified IM and Presence Operating System** の管理 GUI を使用して、IPv6 を使用しないクラスタで各 IM and Presence サービス ノードの Eth0 ポートの IPv6 を無効にします。変更を適用するには、ノードを再起動する必要があります。



- (注) IPv6 を使用するクラスタのいずれのノードも使用しない場合は、IPv6 エンタープライズパラメータがクラスタで無効になっていることを確認します。

### 手順

- Step 1** **Cisco Unified CM IM and Presence OS** 管理で、**設定 > IP > イーサネット IPv6** を選択します。
- Step 2** **[イーサネット IPv6 設定]** ウィンドウで、**ipv6の無効化** のチェックボックスをオンにします。
- Step 3** **[Update with Reboot (リブートを使用した更新)]** チェックボックスをオンにします。

**ヒント** 予定されていたメンテナンス時間中などに、後で手動でノードを再起動する場合は、**[リブートを使用した更新 (Update with Reboot)]** チェックボックスはオンにしないでください。ただし、変更した内容はノードがリブートされるまで有効になりません。
- Step 4** **[保存 (Save)]** をクリックします。

**[リブートを使用した更新 (Update with Reboot)]** チェックボックスをオンにした場合は、ノードがリブートされ、変更が適用されます。



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。